

野も山もすつかり緑をととのえ、いよいよ本格的な夏の訪れでございます。毎度格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。

季節のご挨拶かたがたダイレクトメール夏号をお届け申し上げます。玉手をかけるといふ将棋用語があります。

相手の王将を、逃げ場の全くない絶対的窮地に追い込む最終指し手のことです。今上天皇や次代天皇を将棋の駒に喩えるのは、少々気がひけますが、分かりやすさを最優先して、敢えてこの喩え話で説明させて頂きます。

同封小冊子の裏表紙「スメラギ特別広報隊近況」をお目通しください。なるほどこういふことかと、ご納得頂けるはずでございます。

遠い遠い高校生時代に端を發した、私播磨屋助次郎の天ノ岩戸開き人生、今ではこんな恐るべき天皇直訴が、許されるまでになって来ているのでございます。

無位無官の一ド庶民が、孤軍奮闘五十有余年、ようやくにしてかけた乾坤一擲の「天皇玉手」、万一無視なさるようなら、何をか言わんや完全に天皇失格です。

否々、否々、天皇陛下に限って、無視などなさるうはずは絶対にあります。事は、自国民一億の、いえ全人類八十億の、いえいえこの星地球に生きとし生きる無数の生命たちの、生き死にに直結する超々重大問題であるのだからです。

更に言えば「天皇」の真使命は、この重大問題の解決にこそあるのだからです。各位には、引き続きご注目ご声援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

ともあれ、またいつものように夏のご用をおうかがい申し上げます。おすすめは「野の花玉手箱」と、夏仕様の「ユーロシリーズ」でございます。

平成二十九年 六月

ほたるぶくろ咲くころ

あるじ

播磨屋助次郎 敬白